

イベント参加報告

第2回全国ダイバーシティネットワークシンポジウム ～女性研究者が輝く近未来を創る～

【日時】 2019年12月6日（金）

【場所】 一橋講堂（東京都千代田区）

【プログラム】

1. 基調講演 梶山ゆみ子氏（総合科学技術・イノベーション会議 議員／富士通株式会社 理事）
2. 全国8ブロックからの活動報告

【主催】 大阪大学、東京農工大学、日本アイ・ビー・エム(株)

【開催担当】 東京農工大学

12月6日に一橋講堂（東京都千代田区）で第2回全国ダイバーシティネットワークシンポジウムが開催されました。今回のシンポジウムは大阪大学等が主催し、東京農工大学を開催担当として「全国ダイバーシティネットワーク組織」の構築を目指した取組の一環として実施されています。会場には北海道から九州まで全国8ブロックの幹事大学や参画機関の関係者などおよそ200名が来場し、前半の基調講演から後半の活動報告やパネルディスカッションまで3時間余りの間、活発な意見交換や議論が行なわれました。

基調講演では総合科学技術・イノベーション会議 議員／富士通株式会社 理事の梶山ゆみ子さんを講師に迎え、「イノベティブな国になるために～産学官で進めるダイバーシティ～」と題しておよそ45分間にわたり、様々な角度からのダイバーシティに対する見方や取組、将来に向けて行なうべき課題などについて話がありました。

まず、総合科学技術・イノベーション会議議員としての視点の中で、女性研究者の割合を3割に目標設定しているものの、いまだに16%程度であり世界的に見ても低い水準にある。そのため、女性の理系人材の育成と確保を強化する政策が進められている、ということを取り上げていました。その中で印象に残ったことは、文理選択時期の高校生に対していかに理系キャリアの魅力を伝えるかに掛かっている、という点です。この夏、森林総研でも実施した「リケジョサイエンス合宿」の見学会などまさにこうした取組のひとつであり、我々もこうした機会を捉えて女性研究者を増やす方向に少しでも尽力できればと思いました。

また、富士通という企業を運営するという立場の話として、女性や外国人を含むダイバーシティ（多様性）やインクルージョン（包括）の推進と同時に、男性・女性の別なく「働き方改革」の推進、より踏み込んで言えば制度、環境、意識を改革することの重要性を強調されていました。このことは私自身も常々思っていることでもあり、単に時間外労働を無くす（減らす）ことだけでなく、「働き方改革を『自分ごと』として考える場作りが大切」という考えは非常に的を射たものと感じました。さらに、富士通における「改革」の一つとしてテレワークの推進があり、非常に軽くて薄い端末を開発しそれを社員一人一人に配布することによって、場所に囚われずに働くことを可能にしているとのこと。この点についてはさすがパソコンメーカー!!ということでしょうか。

基調講演についてここではほんの一部だけご紹介しま

したが、全般にわたり大変分かりやすく、今後の進め方についての様々なヒントが散りばめられていたように思います。引き続き行なわれたブロック毎の報告会では、それぞれの



幹事大学担当者が今年度の主な活動内容などを壇上で説明しました。その後に登壇者によるパネルディスカッションがあり、フロアーの参加者とともに活発な議論が繰り広げられました。その中では、こうしたネットワークを広げていくことがいかに大切かを強調していたことが印象に残りました。また、大学職員が現在置かれている環境の議論の中で、「お茶大インデックス」（研究教育機関における雇用環境の自己評価指標）なるものがあることを知り、それぞれの立場でより良い職場環境を目指そうと取り組んでいることを改めて認識する機会となりました。

（森林総合研究所 ダイバーシティ推進室
田中 良平 記）

筑波大学ダイバーシティセミナーⅤ

【日時】2019年11月28日（木）

【場所】AP秋葉原第4会議室（東京都台東区）

【講師】山村康子氏（国立研究開発法人 科学技術振興機構 科学技術プログラム推進部プログラム主管）

【題名】研究領域におけるGender Equalityとダイバーシティ推進の壁～意思決定プロセスへの女性の参画と推進体制の持続可能性～

今回は、JSTプログラム主管・山村康子氏のセミナーに参加してきました。このセミナーは、科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（全国ネットワーク中核機関（群））」全国ダイバーシティネットワーク組織 関東・甲信越ブロックのイベントとして筑波大学が主催したもので、(1)大学や研究機関等に共通して「壁」として残る、女性の上位層育成を含む「意思決定プロセスへの女性の参画」、および(2)補助事業により整備された組織の維持や取組の継続を含む「推進体制の持続可能性」に焦点を当てたものでした。



また、(1)(2)について、日本各地の大学や研究機関の取組支援に長年関わられてきた科学技術振興機構のプログラム・オフィサー（山村氏）を講師として招き、参加者が研究領域における男女共同参画とダイバーシティ推進の「壁」に関する現状を認識し、その突破に向けた示唆を得ることを目的として開催されました。

セミナーでは、以下のような流れで近年の国内外のダイバーシティ推進状況について紹介がありました。

1. 日本政府による女性の活躍促進に向けた目標値の設定について
2. 文部科学省による女性研究者支援・養成事業について
3. 文部科学省による事業のこれまでの成果について
4. 女性上位層（教授・准教授相当）の育成について
5. 女性マネジメント層の育成について
6. ダイバーシティ推進体制の維持・発展について

このなかで特に強く関心をもったのは、女性マネジメント層の育成についてです。女性マネジメント層の育成のためには、以下の4つの項目をトップダウンで実施することが必要だそうです。

- 1) マネジメント層を目指す意識を養うこと
- 2) マネジメント層のワーク・ライフバランスを推進すること
- 3) マネジメント層の補佐などを管理職等として経験し、経験の蓄積を行うこと
- 4) 女性マネジメント育成のための財源や組織体制を確保すること

また、昨今多くの組織でダイバーシティの取り組みが進められています。どこも最初は「抵抗（多様性に対して何ら取り組みを行わない）」から始まり、「同化（法律や

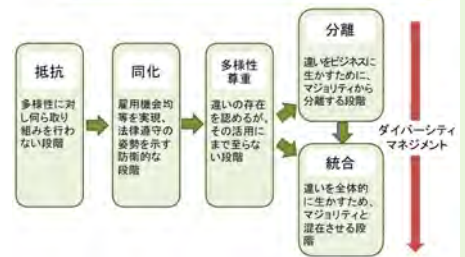
機会を遵守する組織としては防衛的な段階）」を経て、徐々にいわゆる「多様性の尊重（違いの存在は認めるが、組織として活用の段階までは到達していない）」までは到達

するそうなのですが、それを組織運営に有効に生かしているとする“ダイバーシティマネジメント”の段階（「分離（違いをビジネス等に活用するためにマジョリティから分離する状態）」・「統合（違いを全体的に活かすため、マジョリティと混在させる状態）」）まで進む組織は、公的機関では特になかなかないとのことでした。一方、ダイバーシティマネジメントによって経済的な利得が可能な民間企業では、実際に経営に織り込む組織が増え、実際に経済的な側面以外の利益にも繋がっているようです。

では、公的機関でのダイバーシティ推進に意味がないのかということとそうでもなく、ダイバーシティ推進が達成されることによって、「グローバルな人材獲得力の強化」「リスク管理能力の向上」「取締役会（理事会）の監督機能の向上」「イノベーション創出の促進」を獲得することができ、それを組織運営・経営に結び付けていくことで、不確実性の高い現在においても活力ある職場の維持・創出が可能になるとのことでした。

また、研究費の獲得についてもポジティブに働くとのこと。実際に女性の研究者が増えた大学等の組織では、科研費の採択率も上昇したそうです。きっと女性が増えたことで、多様な知的交換が可能になるなど「イノベーション創出の促進」に繋がり、より意義深い研究プロポーザルが可能になったのでしょう。

ダイバーシティに対する組織の取り組み段階



（当日の資料を参考に再構成した模式図です）

（次頁へ続く）

(前頁からの続き)

さらに、すでに一般的になってきましたが、制度の面でもダイバーシティ推進を行うことで研究費の獲得可能性が高まります。セミナーでも「えるぼし」「くるみん」「ユースエール」を有する組織が提案する研究プロポーザルへの加点措置（組織がワーク・ライフバランスに配慮しており、所属する研究者が十分かつ順当に研究の遂行が可能であるという意味合いで加点される。すなわち、組織が上記のどれかを有していると研究費獲得の上で大変有利になる）について活用事例の紹介がありました。このように、研究機関においてはダイバーシティの推進が組織の活力の維持・創出だけでなく、（数年前からその萌芽はあつ

たのですが）ここにきて一段と研究費獲得に直接結びつく時代になってきたようです。

ダイバーシティ推進室では、DSO加盟機関などと連携して継続的に情報を収集し、機構における男女共同参画の推進、それに繋がる子育て支援、ワーク・ライフバランスの推進等を通じて、職員のみなさまの働きやすい職場環境の構築に貢献していきたいと思ひます。

(森林総合研究所 ダイバーシティ推進室
室長 高山 範理 記)

つくばミンナのつどい2019

【日時】2019年12月14日(土)

【場所】つくばカピオ(茨城県つくば市)

【プログラム】

1. 主催者挨拶
2. 第14回男女共同参画推進標語「愛ことば」
展示・表彰式
3. 講演：木場 弘子氏
(フリーキャスター/千葉大学客員教授)
題名：未来を拓く主役は私
～女性活躍社会実現のために～
4. 男女共同参画推進団体による活動状況紹介
5. 交流タイム(パネル展示)

【主催】つくば市男女共同参画推進フォーラム実行委員会

つくば市男女共同参画フォーラム「つくばミンナのつどい2019」に参加し、産業総合研究所、物質・材料研究機構、農業・食品産業技術総合研究機構、筑波大学とともにパネル展示によりダイバーシティ推進の取り組みを紹介しました。



会はつくば市在住のフリーアナウンサー鈴木もえみ氏(元ひらけポンキッキ8代目お姉さん)の明るい司

会進行のもとに進められ、男女共同参画推進標語「愛ことば」の表彰式の後、フリーキャスターで千葉大学客員教授の木場弘子氏による「未来を拓く主役は私」



～女性活躍社会実現のために～と題する講演会が開催されました。木場弘子氏はTBS初の女性スポーツキャスターとして、『筑紫哲也ニュース23』など多数のスポーツ番組を担当され、与田剛氏(現・プロ野球中日ドラゴンズ監督)との結婚を機にフリーランスになられた方です。運と縁とタイミングを絶対逃さない意気込みを大切に、声がかかった仕事は断らないため、沢山の省庁の委員もされています。

また、俯瞰した目で自分を商品化してみて、どうしたら買ってもらえるのかを考える必要性を語り、ご自身は今最もヘルメットを被っている女性キャスターとして現場主義を大切にされています。この他、ご自身のキャスターとしての経験に基づいたコミュニケーションにまつわるお話を中心に、スポーツ選手の妻として、そして母としての経験を交え、男女を問わず、環境を変えるのは自分、自分の力で未来を切り拓く大切さを教えてくれる、元気をもらえる講演でした。

(森林総合研究所 ダイバーシティ推進室
久保田 多余子 記)

産業技術総合研究所：女子大学院生・ポスドクのための 産総研所内紹介と在職女性研究者との懇談会

【日時】 2019年11月18日（月）～19日（火）
【場所】 産業技術総合研究所 つくばセンター中央
 本部・情報棟
【主催】 産業技術総合研究所
 総務本部ダイバーシティ推進室

女子大学院生・ポスドクの皆さんに、女性研究者としてのキャリアをイメージしていただき、研究職を身近に感じていただくためのイベントを開催しました。つくばセンターでは平成28年度より4年連続の開催となります。当日は、全国17の大学・研究機関から、31名の方にご参加いただきました。

1日目は、産総研ダイバーシティ推進担当理事である加藤一実理事の開会のご挨拶から始まり、続いて在職女性研究者紹介と参加者紹介を行いました。参加者のスライドによる自己紹介は、今回初めての試みでしたが、皆さんがどのような研究に興味を持っているかを詳しく知ることができ、打ち解けた雰囲気を作れたようでした。その後休憩を挟んで、産総研女性研究者15名の協力のもと、懇談会を行いました。懇談は、7つの研究領域毎の小テーブルに分かれ、興味のある領域を回ってもらう形式で行いました。どのテーブルも会話が盛り上がり、産総研の研究職を身近に感じてもらえたようでした。夕方の交流会では、産総研研究者と参加者との交流のみならず、参加者同士での

交流も活発に行われ、女性の学生・ポスドク同士で不安や悩みを共有する良い機会となったようでした。

2日目の午前には、産総研全7領域によるラボ見学ツアーを行いました。参加者は希望の2領域のツアーを回り、それぞれの領域に所属する研究者が説明を行いました。このツアーは、実際の研究現場を見学できる貴重な機会であり、質疑応答も活発に行われました。午後は、はじめに白石重明理事（統括）のご講話をいただき、その後産総研の各種制度（人事、イノベーションスクール、リサーチアシスタント制度・技術研修、ダイバーシティ推進策）について、各部署の担当者が説明を行い、2日間のプログラムを終了しました。

参加者アンケートでは、「女性のキャリアについて学ぶことができて良かった」「女性研究者のお話を実際に伺うことができたので刺激になりました」等のコメントが寄せられました。当室では、今後も継続してこのようなイベントを開催していきたいと考えています。

【関連情報】 https://unit.aist.go.jp/diversity/ja/event/191118_div_event.html#j



ニュースレターへの記事をご投稿ください！

「DSO Newsletter」は各DSO参加機関へ、それぞれで働く方へ、また広く外部に向けて情報発信するツールとして原則毎月最終週に発行しております。掲載を希望する記事がありましたら、数行の記事でも結構ですのでぜひお寄せください。

- ・シンポジウムやセミナー、講演会など、イベントのお知らせ
- ・最近行なわれたイベント報告、あるいは参加報告
- ・最近取組中のこと
- ・その他、お役立ちや関連情報

宛先：dso-secretary@ffpri.affrc.go.jp

参加機関内外への当Newsletterの紹介も歓迎いたします。バックナンバーはDSOホームページにてご覧いただけます。

ダイバーシティサポートオフィスのご案内

ダイバーシティ・サポート・オフィス（DSO）は、研究教育20機関をメンバーとして、平成19年より男女共同参画などダイバーシティに関わる活動を連携して推進しています。主な活動の一つとして、参加機関相互のイベント等の機会提供、情報交換を行なっています。当初は科学技術振興調整費の支援を受けてスタートしましたが、現在はイコールパートナーシップでメンバーが対等に運営する、より開かれたDSOとして活動しています。

*DSOメンバー：産業技術総合研究所、森林研究・整備機構、物質・材料研究機構、農業・食品産業技術総合研究機構、千葉大学、筑波大学、神戸大学、土木研究所、国立環境研究所、国際農林水産業研究センター、防災科学技術研究所、高エネルギー加速器研究機構、理化学研究所、宮崎大学、上智学院、岡山大学、宇宙航空研究開発機構、大阪大学、量子科学技術研究開発機構、建築研究所（加入順）

DSO参加機関 イベントのご案内

■ 物質・材料研究機構 ■

リーダーのための「アンコンシャスバイアス」セミナー

【日時】2020年1月7日（火）15:30~17:00

【行事名】男女共同参画セミナー

【題名】リーダーのための「アンコンシャスバイアス」セミナー～ひとりひとりがイキイキと活躍するために必要なこと～

【講師】守屋 智敬氏（社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事）

【場所】国立研究開発法人 物質・材料研究機構 千現地区研究本館 第1会議室

【申込方法】メールでお申し込みください（〆切：1月6日）kenshu@nims.go.jp

【開催機関】国立研究開発法人 物質・材料研究機構

【問合せ先】人材部門人材開発・大学院室（mail：kenshu@nims.go.jp）

【対象】DSO参加機関のみ対象



DSOセミナー／森林総合研究所第31回エンカレッジ推進セミナー

【日時】2020年1月31日（金）14:00~15:00

【行事名】男女共同参画セミナー

【題名】産総研のダイバーシティ推進について

【講師】井出 ゆかり氏（国立研究開発法人 産業技術総合研究所 総務本部 ダイバーシティ推進室 キャリア主幹）

【場所】国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
本館2階 大会議室

【申込方法】メールでお申し込みください：

dso-secretary@ffpri.affrc.go.jp

【開催機関】国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所

【問合せ先】

ダイバーシティ推進室（dso-secretary@ffpri.affrc.go.jp）

【対象】DSO参加機関のみ対象

なお、当日は森林機構からの参加者も聴講します。



令和元年度第2回DSO懇話会

（セミナーに引き続き、DSO参加機関代表者による懇話会・交流会が開催されます）

15:30~17:00 DSO懇話会

（1）管理職のワーク・ライフバランスについて

（2）ダイバーシティに関わる「古い体質」の事例と対応策（例えば設備(トイレ)、制度など）

17:30~18:30 DSO交流会（費用はお一人1,000円を予定）